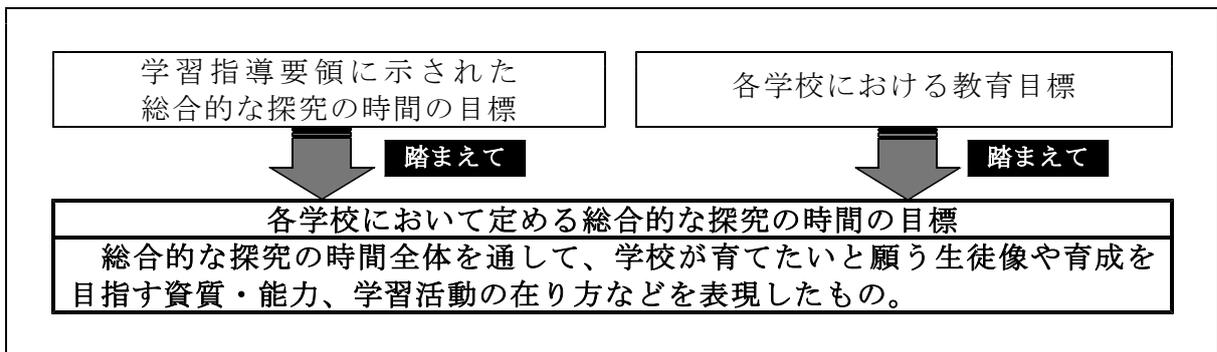


総合的な探究の時間

1 総合的な探究の時間の改善・充実

(1) 各学校における総合的な探究の時間の目標について

各学校は、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）「第4章 総合的な探究の時間」の「第1」に示された目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標や内容を適切に定めて、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要がある。ここに総合的な探究の時間の大きな特質がある。こうした特質を踏まえ、各学校において定める目標の考え方について、改めて示す。【図1】



【図1】 各学校において定める目標の考え方（「高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編（平成30年7月）」第4章「総合的な探究の時間の構造イメージ」より作成。）

【Click!】目標設定の好事例：北海道釧路江南高等学校
令和3年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会資料
「『総合的な探究の時間』における組織体制の構築及び指導方法の研究」
(スライド：9ページ)

総合的な探究の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核となるよう、目標を適切に設定することが重要である。例えば校内研修等で、その重要性を全教職員で再認識した上で、「自校の総合的な探究の時間の目標は適切なものとなっているのか」を検証することも効果的であると考えられる。

(2) 「総合的な探究の時間」で教科等横断的に育成を目指す資質・能力

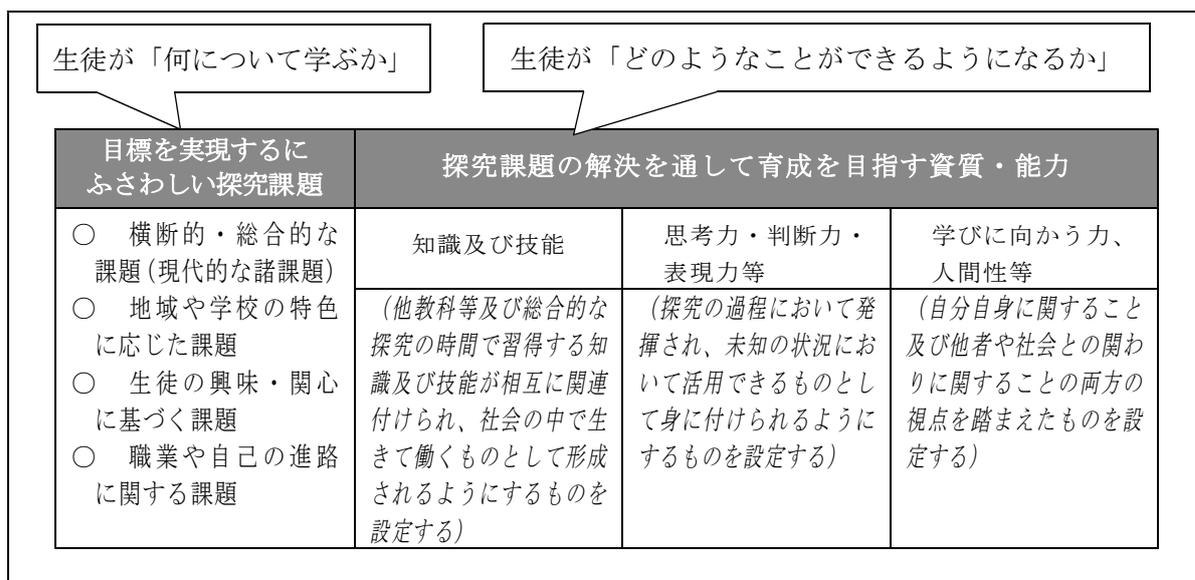
学校の教育目標を具現化していくに当たっては、これまで以上に総合的な探究の時間を教育課程の中核に位置付けるとともに、各教科等との関わりを意識しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成する必要がある。



本手引では、総合的な探究の時間と各教科等の関連を示した資料の例（本手引「総則」P16に掲載（右上のQRコードからも参照が可能）。）を作成したので、各学校において参考にしていただきたい。

(3) 各学校が定める内容の設定

総合的な探究の時間の内容は、目標を実現するにふさわしい探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の二つによって構成される。両者の関係については、目標の実現に向けて、生徒が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力という関係になる。【図2】



【図2】「探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力」

探究課題は、目標の実現に向けて学校として設定した、生徒が探究に取り組むためのものであり、北海道内の各学校においても、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて様々な探究課題が設定されている。【表1】

	学習指導要領で例として示されている探究課題	道内の各学校が設定している主な探究課題 ※（ ）は学校が位置する管内を示す。
横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）	外国人の生活者とその人たちの多様な価値観（国際理解）／情報化の進展とそれに伴う経済生活や消費行動の変化（情報）／自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題（環境）／高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組（福祉）／心身の健康とストレス社会の問題（健康）／社会生活の変化と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）／食の問題とそれに関わる生産・流通過程と消費行動（食）／科学技術の発展と社会生活や経済活動の変化（科学技術）	自国と他国の課題共有（十勝）／持続可能な社会の実現に関わる諸課題（十勝）／共に生きることの大切さ（上川）／国際理解と自己実現（日高）
地域や学校の特色に応じた課題	地域活性化に向けた特色ある取組（町づくり）／地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織（伝統文化）／商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）／安全な町づくりに向けた防災計画の策定（防災）	地域の将来像を見つめる（根室）／町のよさ、魅力、直面している問題へのアプローチ（釧路）／自分たちがつくる地域の未来（釧路）／地域の食料生産や環境における課題解決（十勝）／横断的に捉える国内外の課題（上川）／地域の一員としての自分（上川）／地場製品の企画開発・販売（上川）／地域との関わり方と個人の役割（上川）／豊かな人間関係と地域社会の形成者としての自覚（渡島）／持続可能な社会と地元還元で

		きる取組（渡島）／地域産業の特色や諸課題（渡島）／地域や社会における諸課題の発見と調査（渡島）／持続可能な社会の視点から見る地域の課題（胆振）／地域の伝統文化と産業（胆振）／地域企業活動への理解と社会的貢献（胆振）／地域貢献や新たな価値の創造（胆振）／市の福祉・医療分野及び行政上の課題（胆振）／西胆振の歴史・文化・科学技術（胆振）／地域の自然、産業・文化と課題（後志）／地域社会の魅力発見（石狩）／地域産業や地域への貢献（空知）／地域の食資源の活用（空知）
生徒の興味・関心に基づく課題	文化や流行の創造や表現（文化の創造）／変化する社会と教育や保育の質的転換（教育・保育）／生命の尊厳と医療や介護の現実（生命・医療）	身の回りにある問題は何か（上川）／「職業」「地域」の視点から見る時事問題（上川）
職業や自己の進路に関する課題	職業の選択と社会貢献及び自己実現（職業）／働くことの意味や価値と社会的責任（勤労）	職業観と勤労観の育成（根室）／職業、地域社会と自己との関わり（釧路）／社会を知ることと自己理解の深化（釧路）／自らの進路と実社会とを結び付ける（宗谷）／勤労観と人生観の育成（留萌）／自分が働く職業や産業が地域や世界に与える影響（上川）／実社会や実生活と自己との関わり（上川）／自己と社会との関わり（上川）／職業についての考察と自己実現（胆振）／自分のよさ・強みを生かす生き方（石狩）

【表1】学習指導要領で例として示されている探究課題と、道内の各高等学校が設定している主な探究課題

※ 道内の各高等学校が設定している主な探究課題は、令和4年度「授業日数等の計画表」より抽出。

総合的な探究の時間の内容を計画する際は、表1で示したような探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すことが重要である。

なお、年度初めに作成し、教育局に提出する「授業日数等の計画表（いわゆるC表）」の裏面にある、総合的な探究の時間の「目標を実現するにふさわしい探究課題」を記入する欄には、学習項目（例：「インターンシップ」、「探究活動」など）や、資質・能力（例：「問題を解決する力」など）ではなく、生徒が探究活動に取り組む「主題（テーマ）」となるものを記載する必要がある。

2 育成を目指す資質・能力を明確にした単元の指導計画の作成と評価の実践例

(1) 「学校教育目標を踏まえた改善及び評価に取り組んでいる実践事例」

探究課題を「職業の社会的役割と働くことの意味」（全26時間）とした第2学年の実践を例に単元の指導計画を示す。

本事例は、「地域社会に貢献できる人材の育成」という学校教育目標を踏まえた内容となっている。以前から行われていた「インターンシップ」を、生徒が設定した問いの解（答え）を見いだすための情報収集の場面として位置付けたり、新たな問いを提示し、生徒に行動化を求めたりするなどして、探究のプロセスとなるよう改善していることが特色である。

学校教育目標

未来社会を生き抜くための英知と思考力・判断力を身に付け、他者と協調しながら地域社会に貢献できる人材の育成

本校が総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力

- (1) 地域社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。(知識及び技能)
- (2) 地域社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 地域社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

※ 学校教育目標と、学校が総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力における同種の下線部は関連していることを示す。

内容のまとめ

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
職業の社会的役割と働くことの意味	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業の多様性や独自性を理解し、それらが人々の関わりや協働によって地域や社会を支えていることに気付いている。 ・ 調査活動を、目的や対象に応じて適切に計画し、正確かつ安定的に実施することができる。 	自己分析や職業理解を通して問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けて探究に取り組もうとしている。 ・ 探究を通して、自己を見つめ、社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとしている。

次	学習活動	評価の観点			備考
		知	思	態	
第一次 (4時間扱い)	① 探究課題の提示 <div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 職業の社会的役割と働くことの意味 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元の探究課題を把握し、職業の社会的役割と働くことの意味について、現段階における自分の考えをワークシートに記入する。 				※ワークシートは、第四次で生徒の変容を見取る際に活用する。
	② 問いの設定に向けての準備 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパスポートを使って中学校での職場体験実習を振り返る。 ・ 産業種ごとに地域の企業を分類する。 ・ 先輩講話(社会人) ③ 問いの設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「2日間インターンシップをしなければ分からないこと」を設定条件とする。 ・ 単元で解決したい課題を問いの形(疑問文)で表現し、ワークシートに記入する。 <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「課題設定の『条件』が示されることで、生徒は課題が設定しやすくなります。主な条件は、『自分が好きか、興味をもっているか』、『追究する社会的価値があるか』、『仮説→検証が可能であるか』などです。」 </div>		●		

	<p>【想定される問いの例】 生徒A：企業はどのように地域に貢献しているだろうか。 生徒B：社会の中で企業はどのような役割をもっているだろうか。 生徒C：働くために必要な力は何か。また、それは今の自分にあるだろうか。 生徒D：働くことにどのような価値があるだろうか。</p> <p>④ 仮説の設定 ・仮説（自分が立てた問いに対する現段階での「解」）を考える。</p> <p>⑤ 検証活動の計画 ・自分が設定した仮説を立証するために必要な情報は何か、どの場面でどのように情報を収集するか、事前調査と現地調査に分けて調査内容を整理する。</p>				<p>※特に現地調査において、2日間でどのような情報を収集したいのか（例：何を観察したいのか、社員にどのような聞き取りをしたいのか、どのような意識で体験するのか等）を明確にさせる。</p>
<p>第二次（14時間扱い） 情報の収集</p>	<p>① 事前調査 ・検証計画に基づき、インターネットや文献等、多様な方法で事前調査を行う。</p> <p>【想定される検証活動】 生徒A、B：企業（職業）調べ、地域や社会の課題との関連調べ 生徒C、D：自分の強み・弱みを自己分析</p> <p>② 現地調査（インターンシップ） ・検証計画に基づきインターンシップを行い、収集した情報は情報カードに記録する。</p> <p>【ICT】「情報カード」は、Google Keep や Jamboard 等のメモ機能を活用し、写真や音声データを収集することも考えられる。</p>	●			<p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「担当教員は生徒の検証計画を把握し、調査先と調整を図るコーディネーターの役割を担います。また、生徒が検証活動を効率的に進められるよう、調査依頼のメール文のテンプレートを用意しています。」</p>
<p>第三次（3時間扱い） 整理・分析</p>	<p>① 情報カードの整理及び交流 ・現地調査で作成した情報カードを整理し、類似した問いを設定したグループで交流する。</p> <p>② 事前調査及び現地調査の内容を分析 ・他者の意見と比較したり、多面的・多角的に見ることによって、理由付けや具体化を行う。</p> <p>第1次で設定した問いの「解」を表現する。</p> <p>・探究活動によって得られた考えや意見を、自分なりに表現する。</p> <p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「毎時間、その日行った活動を記録し、ポートフォリオにしています。一見、面倒に感じるこの活動も、回を重ねるごとに、自分の研究内容に『愛着』をもつことにつながります。」</p>	●			<p>※整理・分析が進まない生徒への個別の支援： 「考えるための技法（「高等学校学習指導要領解説『総合的な探究の時間』編第7章第3節4」p95）」を活用し、考える際に必要になる情報の処理方法について具体的に支援する。</p>
	<p>① 全体発表会（ポスターセッション）の目的の理解 ・全体発表会の目的は、探究課題である「職業の社会的役割と働くことの意味」について、様々な「解」により一般化（抽象化）することであることを理解する。</p>	●			

第四次
(5時間扱い)
まとめ・表現

- ② ポスターセッションの準備・発表
 - ・第1学年の生徒及びインターンシップ先の企業の方へ向けて、調査研究の成果や今後の行動方針を発表する。
 - ・ポスターの形にまとめ、相手に分かりやすく伝わるよう構成等について工夫する。
- ③ 振り返り
 - ・単元の学習を通して変容した自分のものの見方・考え方を振り返るとともに、今後の高校生活や職業の選択、社会貢献及び自己実現の在り方についてワークシートにまとめる。

【ポスターの内容】

- ・どのような問いを立てたか。
- ・どのような仮説を立て、どのような検証活動を行ったのか。
- ・どのような結論を出したのか。
- ・新たな問い
(例) 今、何をすべきか。
 どのような職業を選択すべきか。

評価の実践例「主体的に学習に取り組む態度」

○ 評価の実践例

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度」】

探究を通して、①自己を見つめ、②社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする。

【生徒Eのワークシート】

総合的な探究の時間「職業の社会的役割と働くことの意味」
2年△組△番 ○○-○○

問い	働くために必要な力は何か。また、それは今の自分にあるのだろうか。
仮説	働くためにコミュニケーション能力が必要。接客のアルバイトの経験から、ある程度今の自分には身につけている。
解	働くためにはコミュニケーション能力だけではなく、臨機応変さや、チームで働く力が必要である。自分にはまだまだそのような力が足りていない。

Q1 あなたの立てた仮説と解の違いは何ですか。(考えはどのように変化しましたか。)

始めは、コミュニケーション能力さえあればどんな仕事でも何とかやっていると
思っていた。しかし、それだけではなく、臨機応変に対応する力や、周囲の人に報告
や相談をしてみんなで一緒に解決していく力も加わった。

Q2 Q1の回答について、なぜ違いが生まれたのですか。(考えが変わった理由は何ですか。)

現地調査として、介護施設でインターンシップを体験した。通常業務では、得意なコ
ミュニケーション能力を生かして利用者さんと関わっていたが、食事介助中に自分の不注意
で食事をひっくり返してしまった。衝撃で固まってしまい何もできなかったが、利用者さ
んが他の職員を呼んでくれて何とか対応した。この出来事で、考え方が大きく変わった。

Q3 今後の高校生活で取り組むべきことは何ですか。

私の将来の夢は介護士になることなので、これまである程度自信のあったコミュニ
ケーション能力は、引き続き自分の長所として磨いていく。その上で、今回新たに気付いた臨
機応変に対応する力や、チームで課題を解決する力も高めていく必要がある。特に、授業
等におけるグループ学習に積極的に取り組みたい。以前は「誰かがやってくれる」のを待
っていたが、そのような消極的な姿勢では、社会では通用しない。一人ひとりの利用
者さんに幸せを感じてもらえるような介護士を目指し、周囲の人と協力して課題に取り
組んでいきたい。また、ボランティアや学校行事等も、興味がないからといって適当に参
加するのではなく、視野を広げて様々な経験を積み重ねることによっての対応する力も高ま
っていくと考える。

(今後の高校生活で取り組むべきことは何ですか。)

私の将来の夢は介護士になることなので、これまである程度自信のあったコミュニケーション能力は、引き続き自分の長所として磨いていく。

その上で、今回新たに気付いた臨機応変に対応する力や、チームで課題を解決する力も高めていく必要がある。

特に、授業等におけるグループ学習に積極的に取り組みたい。以前は「誰かがやってくれる」のを待っていたが、そのような消極的な姿勢では、社会では通用しない。一人ひとりの利用者さんに幸せを感じてもらえるような介護士を目指し、周囲の人と協力して課題に取り組んでいきたい。

また、ボランティアや学校行事等も、興味がないからといって適当に参加するのではなく、視野を広げて様々な経験を積み重ねることによっての対応をする力も高まっていくと考える。

①

②

【評価の結果】

生徒Eは、将来の夢の実現に必要な能力をインターンシップを通じて見つめ直し、自身の強みと、身に付けるべき力は何であるかを理解した(①)。その上で、学校生活にどのように生かしていくかを具体的に考え、社会人として社会に参画し、貢献するために必要な資質をどのように身に付けていくか、自分なりに分析・計画をしていることから(②)、評価規準に示す資質・能力が育成されていると判断することができる。

(2) 「教科等横断的な視点からの改善及び評価に取り組んでいる実践事例」

探究課題を「生活圏の変容に起因する諸問題」（全24時間）とした第3学年の実践を例に単元の指導計画を示す。

本事例は、生徒が、「地域のために自分は何ができるのか」について自ら課題を設定し、各教科の見方・考え方を働かせながら、追究していく活動であり、総合的な探究の時間の集大成としての取組を求めていることが特色である。

内容のまとめ			
目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活圏の変容に起因する諸問題	生活圏の調査を基に、現代の諸課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。	生活圏の現代の諸課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりに着目して、「生活圏の変容に起因する諸課題」などの主題を設定し、学習者が設定した生活圏の課題と解決の方策について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	私たちのまちの課題と解決の方策について、よりよい社会の実現を視野に、自身の生活圏でみられる課題を主体的に追究、解決しようとする。

次	学 習 活 動	評価の観点			備 考
		知	思	態	
第一次 (11時間扱い) 課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題への取組に見通しをもつ。 ・ 探究する主題である「生活圏の変容に起因する諸問題」について取り組むことに見通しをもつ。 ○ 生活圏に見られる課題を自ら設定する。 Step1 グループ（同じ生活圏で構成する）ワーク ・ グループ内で分担し、地域の様々な情報をインターネットで収集する。 ・ マインドマップを作成し、生活圏の諸課題を確認する。 Step2 パーソナルワーク ・ グループワークで確認されたものから、自分が追究、解決したい課題を決定する。 ・ 設定した課題の深刻性の根拠を、データで示すとともに、解決することの価値を定める。（調査趣旨の明確化） 	●			<p>【ICT】マインドマップや「調査構想シート」を学習支援ソフトの機能を使って、共有することも考えられる。</p> <p>※地域の情報を効果的に収集したり、収集した情報をもとにマインドマップを作成したりしている。</p> <p>●</p> <p>※マインドマップの作成を基に、生活圏の課題を見いだそうとしている。</p> <p>※地域社会の持続性に着目し、根拠のある深刻性と価値の伴った、適切な問いが表現できている。</p>
	<p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「本格的な探究活動に入る前に、例えば『あるべき姿と現状とのギャップから問いを生成する』など基本的な問いの生成についての講義・演習を実践しています。それから、各教科で『問い』を設定した授業を行うことで、生徒は『問い』について考えることに慣れてきますよ！」</p> <p>【単元を貫く問い】（学習者が問いの形で表現する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した課題を課題として終わらせず、その解消、改善を視野に地域社会の持続性に着目する。 ・ 設定した課題を「問い」の形に表現し、「調査構想シート」に記入する。 				<p>【教科等横断的な視点】 公民科「公共」の「C持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の学習成果を生かすことも考えられる。</p>

	<p>Step3 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題（問い）と調査の趣旨、価値が書かれた「調査構想シート」をグループ内で発表し、意見交換を行う。意見交換を基に必要なに応じて「調査構想シート」を修正する。 		<ul style="list-style-type: none"> ● ※意見交換の結果や他の学習者の発表を聞き、自分の調査に生かそうとしている。
<p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「本校では、生徒が進む『課題設定のプロセス』を可視化し、教員間で共有しています。これにより、生徒がどの段階で止まっているのかが明確になり、適切なアドバイスをすることができています。『課題設定のプロセス』は次のとおりです。①探究するジャンル（例：地域）の設定→②『主題』となる大きなテーマ（例：地域の観光）の設定→③テーマに関する知識の獲得（例：地域の観光客数の推移や観光客の動向のデータを収集する、観光を担当する役場職員に聞き取りを行うなど）→④追究したい内容を複数あげていく→⑤学校が提示する条件と照らし合わせて一つに絞り込み、課題を設定する→⑥疑問文の形で表現する（リサーチクエスチョンにする）」</p>			
<p>【本次の問い】 どのような仮説が設定できるだろうか。また、仮説の真偽を明らかにするためにはどのような検証が必要になるのだろうか。</p>			
	<p>○ 仮説を立て、検証計画を作成する。</p> <p>Step1 事前調査（デスクワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の成り立ちや変容に関する情報や、設定した課題の周辺情報を収集し、課題に関わる諸事象を大観する。 <p>Step2 仮説の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の問いに対する暫定的な解や、解につながる予想などを設定し、「調査構想シート」に記入する。 <p>Step3 検証活動の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮説を検証するための調査項目や調査対象、調査方法などを吟味し、調査の計画を立て、「調査構想シート」に記入する。 関連する生活圏外の地域との結び付きに着目したり、比較したりすることを計画に含める。 <p>★ 中間報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定課題（問い）、仮説、検証活動が書かれた「調査構想シート」をグループで発表し、意見交換を行う。意見交換を基に必要なに応じて修正する。 修正後、「調査構想シート」を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 	<p>【教科等横断的な視点】 各教科・科目で行われている、仮説を立てて検討する学習の成果を生かすことも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ※設定した課題（問い）の周辺情報を効果的に収集している。 ● ※地域社会の持続性に着目して、適切な仮説が表現できている。 ● ※仮説の検証に必要な調査項目を立て、調査方法を具体的かつ現実的に計画することができている。 <p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「定期的な報告会は、生徒にとってペースメーカーの役割を担っています。例えば、第1回報告会は『設定した課題と仮説、検証計画の報告』、第2回報告会は『検証活動の経過報告』、第3回は『まどめの概要説明』といった内容を指定することで、生徒はショートスパンで見通しをもちながら活動を進めています。』</p>
<p>第二次（6時間扱い） 情報の収集</p>	<p>【本次の問い】 自分の考えが適切であることを証明するために必要なものは何か。</p> <p>○ 地域調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットなどを通して、文献調査を中心に情報収集を行う。 Zoomや電話による聞き取り調査の場合には、事前に電話や手紙を使って相手の都合を確認するとともに、調査の目的や聞き取りしたい事項について整理しておく。 		<p>【advice】先進的な実践を行っている道内の先生の声 「地域経済分析システム（リーサス）をお勧めします！地域の人口推移や経済に関する様々な情報が容易に手に入り、生徒は有益な基礎情報を得ることができます。高校生や大学生が使用することを想定したサイトの作りになっているのもありがたい！アンケートはGoogle Formsで実施するなど、個人のパソコンを積極的に活用しています。インターネットで収集した文献については、引用元を官公庁など公的なものに限定する、出典を明確にするなどの条件を付けています。』</p>
<p>第三次（4時間扱い） 整理・分析</p>	<p>【本次の問い】 収集した情報をどのように使うことで、自分の主張が伝わりやすくなるだろうか。</p> <p>○ 収集した情報を整理し、分析（仮説の検証）する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の収集や聞き取りから分かったことを整理し、仮説の妥当性を検証する。 不十分な点については情報の再収集と整理、分析を追加して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● ※収集した資料を基に、地図化したり、統計をグラフ化したりするなど適切にまとめている。

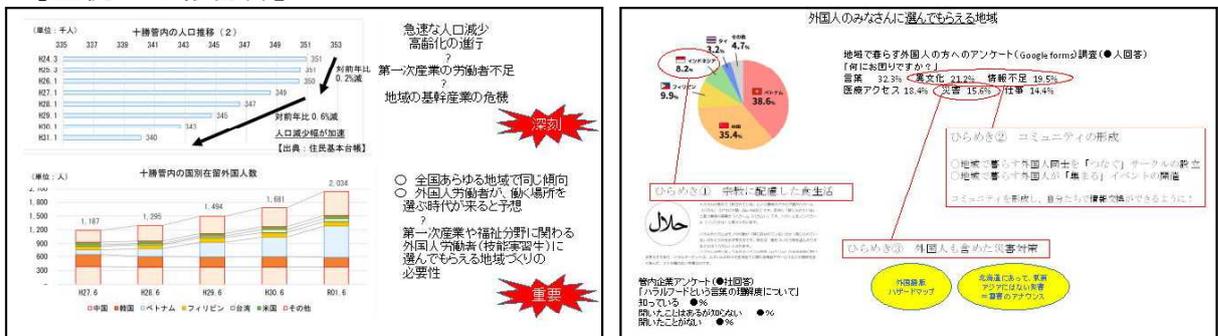
	<p>○ 発表資料（「調査報告書（提言書）」）を作成する。 ・「生活圏の変容に起因する諸問題」に関する具体的な解決の方策について、考察、構想したことを「調査報告書（提言書）」としてまとめる。</p>				
第四次 (3時間扱い)	<p>★ ポスターセッション</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した調査報告書（提言書）に基づいて、自らの解釈を加えて発表し、意見交換を行う。 意見交換を基に必要に応じて修正した「調査報告書（提言書）」を提出する。 <p>【ICT】活動の成果を動画にしてウェブページで成果の普及をすることなどが考えられる。</p>				
まとめ、表現	<p>○ 単元のまとめ（「リフレクション・シート」の作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が追究、解決しようとした設定課題（問い）の解を再整理し、さらに追究していきたいと考えたことを「新たな問い」として表現する。 ポスターセッションで、個別に説明された解決の方策（提言）を一般化し、「持続可能な地域づくり」の在り方について、自分の考えをまとめる。 				<p>● ●</p> <p>評価の実践例「思考・判断・表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ※これまでの探究活動を踏まえ、新たな問いを見いだしている。 ● ※他の学習者の考え方を一般化し、よりよい社会の実現に向けて、社会生活に生かそうとしている。

○ 評価の実践例

【評価規準「思考・判断・表現」】

「生活圏の変容に起因する諸課題」などの主題を設定し、学習者が設定した生活圏の課題と解決の方策について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

【生徒Fの報告書】



【評価の結果】

生徒Fは、地域における外国人労働者の増加を主題とし、「外国人が暮らしやすい地域は、どのような姿であるべきなのか」という問いを設定した。

家庭総合や地理総合、公共といった科目の見方・考え方から、宗教に配慮した食生活やコミュニティの形成の必要性など、複数の仮説を立証することで、自分の主張に対する根拠をより明確にし、地域のあるべき将来像を多面的・多角的に考察、構想していることがうかがえる。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

Topic

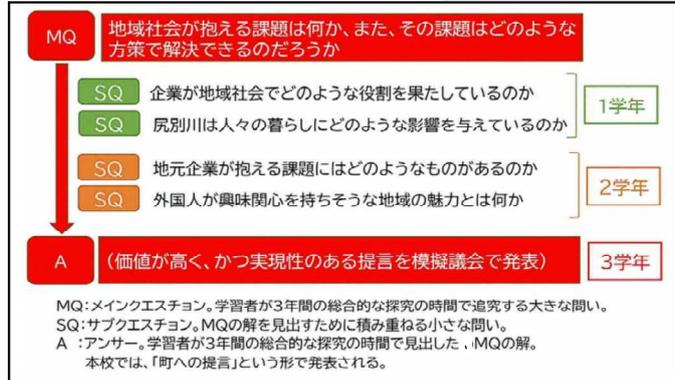
北海道蘭越高等学校における総合的な探究の時間の改善・充実 ～3つのChallenge～

北海道蘭越高等学校は、令和元年度から三年度まで、北海道高等学校「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」の指定校となり、「系統性を意識した探究課題の再設定」などをテーマに掲げ、総合的な探究の時間の改善・充実に取り組んだ。蘭越高校は、どのようなことに挑戦し、どのような展望を持って取り組んだのか、その実践について示す。

【Challenge - I】実践～3年間の系統的な探究課題（「単元の問い」）の再構成

学習内容の軸を「地域（蘭越）」とし、高校3年間全体の探究課題（問い）「地域社会が抱える課題は何か、また、その課題はどのような方策で解決できるのだろうか」を設定し、3年生の秋に、問いの答えを「町への提言」という形で表現することとした。

学習のゴールとなる提言内容が、「価値が高く、かつ実現性のあるもの」となるために、1・2学年の単元構成を、自然システムと社会・経済システムの両側面からアプローチし、多面的に地域の現状を捉えるアウトラインを作成した。【図1】



【図1】探究課題（問い）の構造

※4つの単元で構成され、それぞれの単元で設定された問い（SQ：サブエスチョン）の答えを積み重ね、3年間全体の問い（MQ：メインエスチョン）の答えを表現する構造となっている。

【Challenge - II】展開～蘭越高校地域デザイン同好会

令和2年11月に発足した地域デザイン同好会は、蘭越町の活性化に向けたアイデアを考えたり、蘭越町をPRできるような商品開発を行ったりしている。令和4年3月に行われた高校生探究サミット（北海道教育委員会主催）では、「蘭越町の活性化に向けて」を発表し、審査員として参加した（株）ニトリから特別賞を授与された。

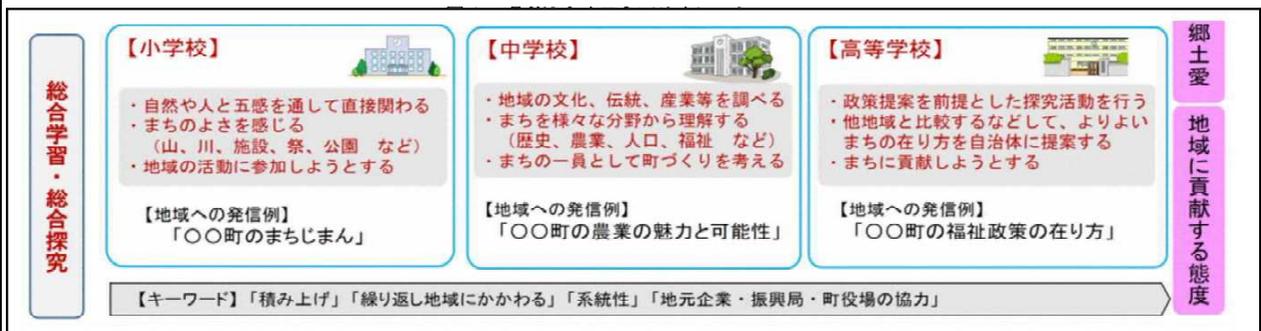
町の広報誌に紹介された活動の様子（クリックすると拡大されます）→



【Challenge - III】展望～「総合的な学習（探究）の時間」で小中高をつなぐ

高等学校における総合的な探究の時間の目標である「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す」ために、小学校や中学校との接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるような取組ができないかと考え、「地域カリキュラム【図2】」を構想し、蘭越小学校及び蘭越中学校とともに検討し、積極的に意見交換を行っている。

「総合的な学習（探究）の時間で小学校、中学校、高校をつなぐ」ことで地域一体となって、地域に愛着をもち、地域に貢献しようとする人材の育成に取り組んでいる。



【図2】「地域カリキュラム」のイメージ